令和元年１２月

令和元年度西総合支援学校　学校評価実施報告書（前期）

１.「確かな学力」の育成に向けて

重点目標 児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し，個別の包括支援プランによる支援を行い，児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

① 前期の取組について

・今年度，コーディネーター会を実施し，部を超えて連携しながら，児童生徒の願いから出発した「できる」を活かす授業を展開し，検証・評価による授業改善を図るとともに，学校全体や各部の今後の方向性を模索することに取り組んでいる。

・今年度の中学部ユニット変更の取組を，コーディネーター会等で情報共有するとともに，小学部，高等部，支援部における取組に関しても意見交流をして実践に活かしている。

・参観日の保護者アンケートで，概ね「授業のねらいは明確である」「課題に応じて，わかりやすく，工夫された学習内容である」「適切な支援が行われている」という評価をいただいている。

・交流及び共同学習を通して，３つの場を超える教育の取組の一つである，「学校種を超える」について，引き続き検証していきたい。小・中学部における小・中学校教員と連携した居住地校交流及び共同学習，高等部における居住地域の中学校，出身中学校を訪問しての交流及び共同学習等の取組を進めている。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

・今年度，中学部は学部ユニットの変更を行ない，「地域共動」ユニットにおいて，多面的かつ系統的な取組を進めている。目標達成のために，「環境」「余暇」「移動運動」「モノづくり」「家庭生活」「ソーシャルスキル」を中心としたユニットを編成し，授業改善を行っている。従来の居住地域から活動する地域を広げ，地域に働きかけながら，より地域に根差した生活を送ることを目指している。

・中学部と同様に，小学部，高等部においても，ケース会議やユニット担当者会議が充実してきている。子どもたちの更なる成長を目指して，学習の繋がりや学習内容の工夫を検討しながら，授業改善を図っている。

・交流及び共同学習において，各学部で昨年度までの取組を継続，発展させている。中学部と同様に，小学部，高等部においても，地域への働きかけを重視している。

・プログラミング学習を行ない，自ら問題を解決しようとする力を育んでいる。

【分析を踏まえた取組の改善】

・情報共有や意見交換を行なうことで，各部の授業改善が進み，子どもの「できる」を活かした「質の高い授業」ができるようになってきている。連携しながら，さらに授業改善を図って，子どもの「できる」を育んでいきたい。

・家庭・地域に広がり，将来に繋がる「できる」を活かす教育の推進に関して，各部の方向性を教育課程構造図として整理する。

・授業改善や専門性向上に関する取組を交流会で共有し，実践に活かしていく。

③ 学校関係者評価　（第１回および第２回学校運営協議会）

授業見学の後，本校の授業や子どもたちの様子について様々なご意見をいただいた。

・授業を見学して，自分で考えて，自分から行動していく力を培うことの大切さを感じた。

・地域での活動については，学校から近い地域での活動とともに，居住地域での交流ができる活動，居住地域の方々にわかってもらう活動を，より一層，大事にしてほしい。

・学校も，地域への働きかけを重視して，中学部では新しい取組をされている。私たち保護者も，日ごろから地域との交流が必要だと感じた。

２．「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより，自己の将来に夢や希望を持ち，自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

① 前期の取組について

・始業式や全校集会において，学校長が，「あそべ（挨拶，掃除，勉強）」の励行について，全校児童生徒に話をしている。
・毎朝，生徒会による挨拶励行が実施され，積極的に各学部の児童生徒などに挨拶をしている。
・芸術活動や創作的な活動に取り組むユニットが各学部で編成されており，様々な場面で創作活動に取り組んでいる。一昨年度から，「アトリエ西総合」という授業を行っており，外部講師を招いて，抽出児童生徒への絵画・造形に関する授業を実施している
・平成２８年度に引き続き，英国ロイヤル・バレエ団の方にご来校いただき，ワークショップを実施していただいた。
・今年度も緑のカーテンに取り組んだ。
・春と秋に実施される桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として，児童生徒による清掃，教職員による清掃に取り組んでいる。
・各学部の授業において，環境等に関する内容の学習に取り組んでいる。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

・自分から挨拶できる場面が増えてきている。全校集会で生徒会本部役員生徒が「おはようございます」と挨拶の見本となる等，生徒による挨拶の励行もされている。
・各学部の授業において，清掃活動に熱心に取り組んでいる児童生徒が増えてきている。
・言語聴覚士や情報教育専門家，医療福祉コーディネーターと連携し，構音指導，言葉の学習や ICT 機器を活用したコミュニケーション指導について充実が図られている。
・児童生徒の作品を校内のギャラリーや廊下に展示することで，子どもも教職員も関心・意欲を高めている。地域では，後期に開催している「地域作品展」に加えて，市内のギャラリーに作品が展示される機会が増えている。
・バレエ等，素晴らしい芸術の魅力を肌で感じながら活動する機会を得ることができた。
・緑のカーテンの取組では，今年度も高等部生徒が役割を担い，水やり等自主的に取り組むことができた。
・冬芝のオーバーシードにおいて，高等部生徒のワークスタディの学習で取り組んでいる。

【分析を踏まえた取組の改善】

・言語聴覚士や情報教育専門家，医療福祉コーディネーターの意見や助言も取り入れる等，専門的な視点を踏まえるとともに，指導方法も工夫しながら，対人関係やコミュニケーション指導の充実を図り，生活場面に活かすようにする。
・学習内容や状況づくりを工夫し，多くの人に見てもらう場を設定すること等で，児童生徒のさらなる創作意欲や自己肯定感を育成していきたい。
・芸術等に直接触れる機会を設定することで，子どもたちの感受性や情操を豊かに育てていきたい。

③ 学校関係者評価　（第１回および第２回学校運営協議会）

・作品が様々な場所で展示されることで，地域の方に褒められたり，知ってもらえたりすることが増えた。
・地域で西総合支援学校の作品展があると見に行くようにしている。そのことで児童生徒が身近に感じられる。
・得意分野を持たれている地域の方を西総合支援学校にお招きして，生徒たちに教えてもらってはどうか。

３．「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 自分の体と心に気づき，環境とのかかわりの中で，より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

① 前期の取組について

・医療的ケア検討委員会を随時開催し，学校医や主治医の意見を参考にしながら，児童生徒の健康・安全管理に努めている。今年度から，必要に応じて登校時保健室で，保護者・担任・看護師・養護教諭による健康観察を，チェックリストを活用して実施している。
・京都市リハビリテーションセンターより，毎月１回，ＰＴ（理学療法士）・ＯＴ（作業療法士）に来校していただき，「身体の動き」に関する助言をいただいている。
・各学部の授業において，ニーズに応じて体と心に関する内容の学習に取り組んでいる。
・今年度，スクールバス緊急時シミュレーションを行ない，運行時を想定して，乗務員のスクールバス内での動きや連絡を受けた学校の動きを実際に行った。
・訓練等実施状況
　避難訓練　２回／年，緊急時シミュレーション　４回／年，交通安全教室　１回／年

② 自己評価

【分析（成果と課題）】
・健康観察や体力向上を図る取組などについては，確実に実施し，情報共有を図れている。
・毎朝，生徒会役員の生徒が登校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。
・感染予防教室については，感染症流行時に，生徒が１名利用している。
・今年度も，高等部スポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり，活発な活動ができている。
・ＰＴ・ＯＴ等の外部専門家の活用については，支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。
・性教育の実施について，内容等について様々な場で相談しながら，「生と性に関する授業」を行なっている。年次別研修として授業公開・事後研究会をもち，指導内容や支援について協議を深めている。
・災害時や緊急時の対応について，緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。学校に個人用非常持出袋を保管する取組を実施している。

【分析を踏まえた取組の改善】
・基本的生活習慣の確立については，生徒指導とも連携し，保護者理解を得ながら取り組んでいく。
・感染予防教室については，感染症の流行に合わせ必要に応じて随時，開設していきたい。
・トイレ介助が必要な児童生徒について，教職員の身体への負担だけでなく，児童生徒の行動特性を踏まえ，二人体制で行なえるよう指導体制を整える。
・児童生徒の運動時間の確保，健康の維持増進に引き続き取り組む。
・性教育については，全体研修で学んだことを性教育に関する各学部・学年ごとの年間指導計画に活かし，さらに充実を図る。
・安全，防災，緊急時対応について，管理職の役割を明確にし，再確認を行う。また，若年教員への研修を充実させる。
・昨年度より取り組んでいる土砂災害を想定した避難訓練を今年度も実施し，検討する。

③ 学校関係者評価　（第１回および第２回学校運営協議会）

防災について，下記のようなご意見をいただいた。
・日頃からどういうふうに備えておくか検討しながら考えておくことが大事。
・安否の伝言ができるサービスがある。
・学校のポータブルガス発電機を実際に動かしてみて，非常時における使い方がわかった。

４．学校独自の取組

重点目標 地域や保護者との連携を深め，学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに，地域の障害のある児童生徒，保護者，教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

① 前期の取組について

・学校運営協議会の基本方針を「学校から地域へ，地域から学校へ －双方向の援助による新たな「地域」の創造－」と設定し，「市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくりを推進する」「地域と協働・連携し，子どもたちのキャリアアップを支援する」「障害のある子どもの『学び』と『育ち』を支える地域づくりを推進する」の３点をねらいとして，学校運営協議会での検討内容が学校支援活動に繋がるよう取組を進めている。
・前期，にこにこクラブを２回実施した。
・芝生まつりは１０月２６日（土），校区地域交流会は１０月１０日（木）に実施した。
・ＰＴＡ子育て支援窓口「西の風」を３回実施した。今年度はスクールバス乗務員との交流も実施した。
・サマースクールは，暑さのため今年度より夏季に全校一斉に行うことはしないが，「サマースクールを活かした取組」として，明徳高校との交流や，地域の方のオカリナ演奏等に取り組んだ。

② 自己評価

【分析（成果と課題）】

地域との双方向の援助及び協働により，それぞれの人が自分の役割に応じて学校運営に参画するコミュニティ・スクールを目指し，学校運営協議会において「学校評価・管理プロジェクト」，「キャリアアップ支援プロジェクト」，「地域とともにプロジェクト」の３事業を展開している。

①学校評価・管理プロジェクト … 学校に対する地域からのニーズを踏まえた教育活動や地域と連携した実践事業について計画，実行，検証。
②キャリアアップ支援プロジェクト… 子どもの「できる」を活かす教育の推進と，地域での生活を豊かにするための学習展開の支援。
③地域とともにプロジェクト… 障害のある児童生徒にとっての身近な生活の場単位での「学びと育みの場づくり」をめざす地域活動を推進。

・ＰＴＡ本部役員の保護者の方が，学校運営協議会で話し合っていることを，もっと保護者の方に知ってもらいたいという思いから「学校運営協議会レポート」を作成され，全校保護者に配布している。

【分析を踏まえた取組の改善】

・地域の方への障害のある子どものことや総合支援学校の取組を発信することについては，「にこにこクラブ」「芝生まつり」「子育て支援窓口　西の風」「校区地域交流会」などの取組の充実や，新たな取組について，学校運営協議会において熟議を深め，「学校運営協議会レポート」や学校運営協議会委員の方が作成する，地域の広報誌「桂坂」等に記事にしていただき，発信していきたい。
・テレビ会議システムを使った直接支援など，外部専門家を活用することにより，センター機能の充実を，専門性を活かしながら図る。

③　学校関係者評価　（第１回および第２回学校運営協議会）

・３０年前に比べ，子育てをいかに楽しむかという意識に変わり，その機会も増えた。「芝生まつり」「地域の方によるオカリナの演奏」等からも，楽しむことが増えたと感じた。
・防災に関する話し合いでは，課題は多いが，人と人が協力して，日頃からどうするかを話しておく必要がある。校区地域交流会もあり，人と人とのつながりを作っていくことが大切だと感じた。